

淡海湖の整備と「世界農業遺産」

「世界農業遺産」等の認定に向けた取り組みは？

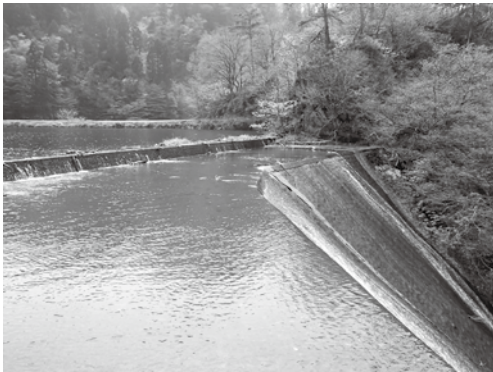


早川 康生 議員

答

認定を目指し、取り組みが開始されたところです。

淡海湖



堤体と洪水吐け



全 景

問

淡海湖は、湖面12ha、貯水量132万tで、1.2kmの隧道を掘って導水し下流の約100haの田畑に用水を供給する、ため池であり、農林水産省の「ため池百選」に選定されている。日本でも有数のため池である。また、このため池は完成してから90年余りが経ち、老朽化が進んでいるため整備が行われるが、その内容・期間・事業費等について伺う。

答

農林水産部長

滋賀県営の農地防災事業として平成26年度より平成33年度にかけて、堤体の抑え盛土による改修、洪水吐けおよび緊急放流ゲートの改修、取水施設の設定など、施設の安全性の確保と長寿命化に向けた工事が実施される予定です。総事業費につきましては、7億9200万円です。

問

本ため池は、大正2年から昭和11年まで、24年の歳月を費やして築いたもので、事業を主導した松本彦平氏や、長男彦五郎氏をはじめ淡海耕地整理組合が大変な苦勞の末、完成させた貴重な遺産であると思う。

答

農林水産部長

淡海湖の「世界農業遺産」認定に向けての積極的な取り組みについてであります。が、本年度より滋賀県において、国連食糧農業機関による「世界農業遺産」の認定を目指し、取り組みが開始されたところです。市としても、淡海湖をはじめとする高島市の豊かな資源が、申請に盛り込まれ、認定が叶いますよう、県域での協議に参加してまいりたいと考えております。

今、「世界農業遺産」等の認定を目指して国や県のいろいろな動きがあるように聞いている。世界農業遺産とは、ため池を含む農業用水施設も含まれると思う。淡海湖の「世界農業遺産」等認定に向けて、積極的に取り組んでもらいたいと思うが、これについての見解を伺う。

その他の質問

●農業水利施設アセットマネジメントの推進について